

神奈川県病院経営緊急対策会議の協議結果（第2回）

1. 会議名称

神奈川県病院経営緊急対策会議

2. 開催日時

令和7年6月27日（水）16:30～18:30

3. 場所／開催方法

Web開催

4. 出席者

（五十音順）

氏 名	職 等
窪倉 孝道	神奈川県病院協会副会長
小松 幹一郎	神奈川県医師会理事
菅 泰博	神奈川県病院協会副会長
鈴木 紳一郎	神奈川県医師会会長
吉田 勝明	神奈川県病院協会会長
吉田 学（座長）	多摩大学医療・介護ソリューション研究所 客員教授（元厚生労働事務次官）
渡邊 亮	神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション 研究科教授
埋橋 美穂	神奈川県医療企画担当局長

5. 会議の結果（概要）

（1）緊急的な支援について

第1回会議での委員からの意見を踏まえつつ、県に求める支援等について改めて委員の意見を伺った。

ア 委員からの主な意見

- ・ 相談窓口の設置が必要。これは、病院の経営が悪化していることを行政が把握する目的と、地域医療が崩れないようにするという目的がある。県の幹部職員に窓口の司令塔になっていただきたい。
- ・ 病床数適正化支援事業では病床を削減する際に給付金が支給されるが、非稼働病床も給付対象となっている。必死で病床を稼働させながら地域医療に貢献している病院に対する財政支援を求めたい。
- ・ 病院では人材確保に苦労している。人材確保のために人材紹介会社に支払う手数料の負担が大きい。法律による規制等、国に提言していくことも必要だが、地域医療介護総合確保基金を活用した支援を求めたい。
- ・ 高額な医療機器の購入や更新が必要な際、消費税負担が病院の経営を圧迫している。控除対象外消費税問題の抜本的な解決を望む。

イ 意見を踏まえた今後の対応

- ・ 委員からの意見を踏まえて、県による緊急支援策を検討していくこととな

った。

(2) 診療報酬改定を見据えた国へのさらなる提案・要望について

社会医療法人名古屋記念財団理事長太田圭洋氏より講演をいただき、その後、意見交換を行った。

ア 太田氏からの講演概要

- ・ 病院は現在、「平時」ではなく「有事」である。
- ・ 神奈川県内の医療は民間病院で持っているが、地域医療は崩壊寸前である。
- ・ 病院自体もこれまでの体制・やり方では 2040 年まで維持できないということも理解すべき。
- ・ 社会保障制度はきれいな人口ピラミッド社会を前提に構築されており、人口減少社会においてはやり方を大きく変える必要がある。
- ・ 医療人材は、今までのように集めることはできない。
- ・ 必要な病院については公立、公的、民間について支援が必要。

イ 意見交換で出された主な意見

- ・ 診療報酬の改定に向けて、引き続き国に対して行動を起こす必要がある。
- ・ 県においてもしっかりと財源を確保し、基金として積み立てるなど財政的な支援が必要。
- ・ 病院の経営危機について県民にも知っていただく必要がある。行政からも周知をお願いしたい。
- ・ 今後は、病院単体ではなくアライアンスを形成していくことも必要。

ウ 意見交換を踏まえた今後の対応

- ・ 委員からの意見を踏まえ、国への更なる要望等の対応を検討することとなった。

6. 次回の開催

令和7年8月上旬